

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 戸祭 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	90人	算数	90人	理科	90人
第5学年	国語	118人	算数	118人	理科	118人

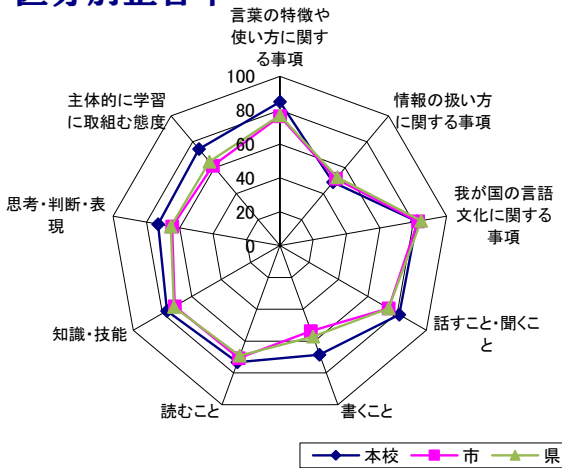
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	84.9	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	48.9	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	82.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	81.5	74.1	74.2
	書くこと	68.5	53.7	57.2
観点	読むこと	73.3	70.7	69.2
	知識・技能	77.0	71.6	72.3
	思考・判断・表現	73.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	74.4	61.6	64.7



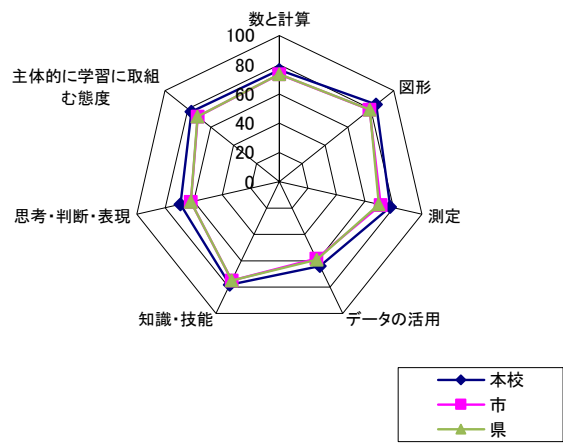
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きについては、音読みの熟語、訓読み、送り仮名のある漢字の読み書き、ローマ字表記の読み、いずれも県の平均を上回った。 ○主語と述語の関係についての理解は、85.6%で県の平均を10ポイント上回っている。 ○「様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている」設問では、県の平均正答率を3ポイント上回った。	○朝の学習や家庭学習で既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、定着を図っていくようにする。 ・作文や日記指導の中で、既習の漢字や熟語を使って正しく書くことを重視し、日頃から意識的に漢字を使う習慣が身に付けられるようにする。 ・主語と述語がきちんと対応しているか、意味を考えながら文章を書けるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く」設問は、県の平均正答率を2ポイント上回った。 ●国語辞典の使い方の理解は、県平均を9ポイント下回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する」設問は、県の平均正答率を4ポイント下回った。	・国語の授業のみならず、社会科や総合の時間にも情報を整理したり、考えたことを理由とともにまとめていく学習を取り入れていく。 ・国語の授業のみならず、他教科や家庭でも国語辞典を活用し、正しい使い方が身に付くようにする。 ・説明文の学習を通して、多くの事柄の整理の仕方(比較・分類)について確認したり、話全体の中心について考え、必要な語句を見付けたりして、要約できるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○類型外誤答はなく設問をしっかりと読み解答できている。 ●「漢字のへんやつくりを理解している」の設問について校内正答率が市より0.6ポイント、県より2.5ポイント下回った。	・国語の授業「漢字辞典の使い方」の学習時、部首を用いて辞書を活用する機会を十分に設ける。 ・書写の授業や漢字練習においても漢字の成り立ちを意識させ、知識を高める指導を行う。
話すこと・聞くこと	○「話し合いの内容を聞き取る」の問題では、どの設問も県の平均正答率より5～8ポイント以上上回っている。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」の記述式の設問では、敬体で書けていないという理由以外の誤答が16.7ポイントあり、問われていることに答えられていない解答が見られる。	・国語の話す学習では、よりよく会話を進めるために抑揚や間の取り方などのやり方を確かめ、普段の生活の中で生かせるようにする。 ・相手の話を理解するためにメモを取る方法を考え、相手の話を整理して理解できるような技能を身に付けられるように指導する。
書くこと	○本領域の平均正答率は、68.5%で、市の平均を11.3ポイント上回った。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の設問では、県の平均を22.5ポイント上回り、段落構成を意識し、文章を書くことができていえる。 ●「情報と情報の関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている」の設問では、類型外誤答が33.3%、無回答が16.7%を占め、因果関係を把握し、文章を書くことに課題があると言える。	・ノート指導や、自分の考えを書く活動を日々の学習活動に取り入れ、自分の考えを文章で表現する機会を確保し、書く力を高めていく。 ・文書を読み取り、自分の意見を書くことに苦手意識が見られる。日常的に、根拠を明らかにして、自分の意見を表現する機会を各教科の学習活動でも取り入れながら、書く力を高めていく。
読むこと	○本領域の平均正答率は、73.3%で、市の平均を4.1ポイント上回った。 ○「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている」の設問では、県の平均を11.1ポイント上回り、人物等の気持ちを考えながら文章を読む力が付いていると言える。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している」の設問では、県の平均を4.2ポイント下回り、無回答が4.4%という状況である。	・朝の読書や家庭での親子読書等の習慣により、本に親しんでいる児童が多く、読書の習慣が身に付いてきている。今後も多くの書物に触れる機会を多く設定していく。 ・説明文等で段落ごとに要約をする活動や、筆者の述べたいことはどこに書いてあるのか等を考える活動等を充実させ、確かな読みの力を育てていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.5	73.5	73.6
	図形	84.8	79.0	79.1
	測定	77.8	71.1	69.8
	データの活用	64.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	78.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	69.4	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.8	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

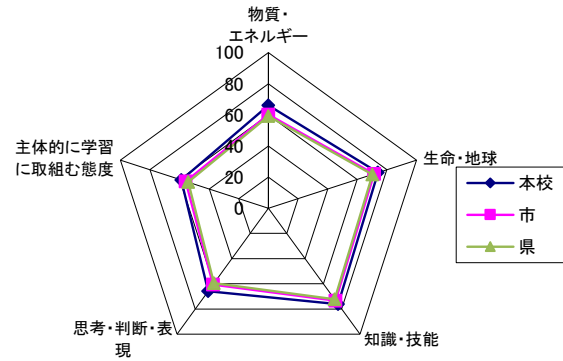
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○□を使った式の文章問題では、県の平均正答率を16.5ポイント上回った。 ●小数の相対的な大きさについて理解する問題では、県の平均正答率を9ポイント下回った。	・小数のしくみについてももう一度確認しながら復習し、引き続きドリルやプリントを活用し、繰り返し復習することで定着を図る。
図形	○どの問題も県の平均正答率上回り、定着が図れている。特に円の半径を理解する問題では、県の平均正答率を14.8ポイント上回った。	・引き続きプリントやドリル等を活用し、繰り返し復習することで定着を図る。
測定	○どの問題も県の平均正答率を5ポイント以上上回り、定着が図れている。特にはかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める問題では、県の平均正答率を15ポイント以上上回った。	・長さや重さについて、およそのイメージを実生活に結びつけて考え、量的な感覚を具体的にもてるようにしていきたい。
データの活用	○棒グラフを正しく読み取る問題や棒グラフの1めもりの大きさに着目して間違いを指摘する問題では、県の平均正答率と同程度だった。 ○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題では、県の平均正答率を10ポイント以上上回った。	・棒グラフの1めもりの大きさに着目し、正しく読み取ることができるようするために、プリントなどで定期的に復習する時間を設け、定着させる。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.1	60.2	59.2
	生命・地球	74.0	71.3	70.3
観点	知識・技能	76.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	65.9	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	58.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「光のせいしつ」の鏡の枚数を増やして光を重ねた部分の明るさと温度の様子を指摘する問題の平均正答率は、県平均を7.6ポイント上回っている。 ○「電気の通り道」の電気を通す物と電気を通さない物の問題の平均正答率は、県平均を5.8ポイント上回っている。 ●「物の重さ容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を、実験の結果から推測し、説明する問題の平均正答率は、県平均を7.9ポイント上回っているが、理解している児童は全体の1/4である。 ●知識の定着度は十分であるが、実験の結果を考察し、なぜそうなるのかの理由を考えることに課題があると思われる。	・実験や観察に対して興味関心をもって取り組むことができているので、今後も年間指導計画に沿って着実に実施していく。 ・観察、実験の意図を明確にし、実験の予想を立て、その結果を考察しまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力をつけていく。 ・実験結果を身近な生活と結びつけ、学習内容のより深い定着を図る。
生命・地球	○「植物の育ち方」のグラフからホウセンカがよく成長した期間を読み取り、記録カードと結びつける問題の平均正答率は、県平均を7.4ポイント上回っている。 ○「身近なしぜんのかんさつ」の野外の観察で近づいてはいけないとげや毒のある生物を理解する問題の平均正答率は、県平均を12.8ポイント上回っている。 ●「こん虫の育ち方」のモンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する問題の平均正答率は、県平均を13.6ポイント下回っている。 ●学習内容は定着しているものの、観察結果を多様な見方で捉えたり、分かった内容を解釈して生活に活かすことに課題があると考えられる。	・身近なところでの自然体験を通して、興味関心をもてるように働きかけるようにする。 ・観察したことを知識だけでなく、多様な見方を示し身近な生活の中の現象と結びつける。 ・直接、観察や実験ができないことは、情報機器などを活用し映像を見せることで児童の理解を深める。

## 宇都宮市立戸祭小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある」について肯定的回答をした児童の割合は83.4%で、県の平均を2.9ポイント上回っている。また、「勉強していて、不思議だな、なぜだろう、と思うことがある」について肯定的回答をした児童の割合は85.6%で、県の平均を6.7ポイント上回っている。学習に対する興味・関心が高い児童が多いと考えられるので、今後も児童が自主的・意欲的に学習に取り組めるよう、教材や学習の進め方などを工夫し、授業改善を図っていく。

○「自分にはよい所があると思う」という項目では肯定的回答が84.4%で、そのうち「はい」と回答した児童は61.1%であり県や市の平均を約10ポイント上回っている。児童の長所を知り、それを生かした指導をしていけるようにする。

●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」について肯定的回答をした児童の割合は48.9%で、県の平均を15.4ポイント下回っている。また、「難しい問題に会おうとよりやる気が出る」については6.3ポイント、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」については6.3ポイント、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」については7.2ポイント、それぞれ県の平均を下回っている。自主的に学習したり、分かるまで根気強く取り組んだりすることに課題が見られる。学習に対する興味・関心は高いことを生かし、それを大切にしていくとともに、進んで学習に取り組み、分からないことにも根気強く取り組むよう励ましたり、既習事項の復習など自主学習を奨励したりしながら、探求心や向上心を養っていく。

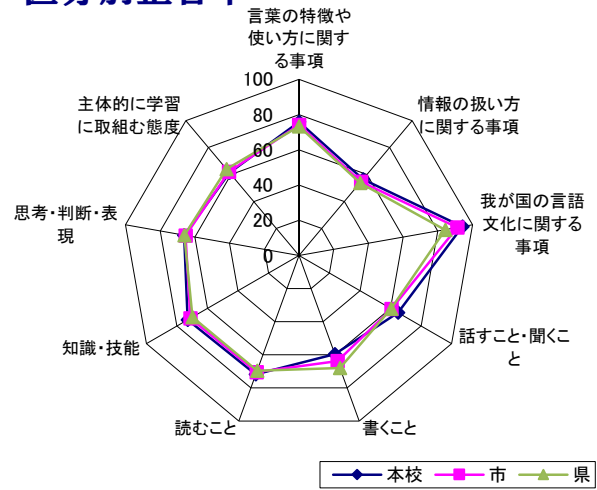
●「早ね、早起きを心がけている」について、肯定的回答をした児童の割合は県や市の割合より低く、特に「はい」と答えた児童の割合は47.8%で、県や市の平均を11ポイント以上下回っている。学校での児童の様子を観察し、寝不足な児童については、家庭と協力して生活リズムを整えていけるように働きかけていく。



宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.8	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	56.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	64.9	60.6	60.4
	書くこと	59.5	63.8	68.0
	読むこと	71.8	70.4	69.6
観点	知識・技能	72.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	66.2	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.4	61.9	64.0



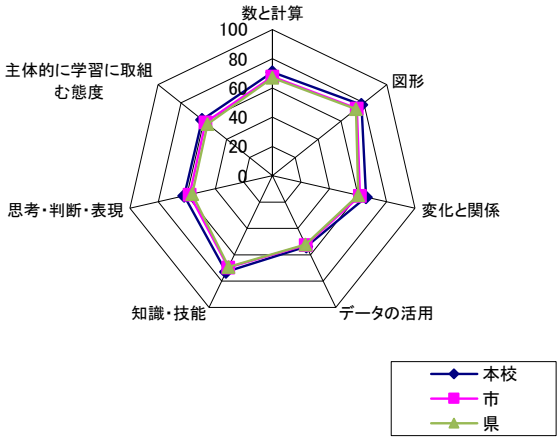
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は75.8%で、県の平均を2.5ポイント、市の平均も1.6ポイント上回った。 ○「漢字を読む」「漢字を書く」のどちらの問題においても、正答率は県と市の平均と同じか上回っている。第4学年の漢字は定着している様子が見られる。 ●言葉の学習「性格を表す語句」を問う問題では、県の平均を5ポイント以上下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や家庭学習の課題とし、教科書にある前学年までの漢字の復習ページを活用し、さらなる知識の定着を図る。 ・国語辞典を身近において、分からない言葉が出てきたときにはすぐに辞典を活用して、語彙を増やす機会を設ける。 ・読書励行し、いろいろな言葉に触れることで、語彙を増やしていく機会を増やす。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は56.5%で、県の平均を2.7ポイント、市の平均を1.8ポイント上回った。 ○「漢字辞典の使い方」は、県の平均を5ポイント以上上回った。 ●説明文での段落相互の関係を捉える問題は、正答率は40.7%で、定着度の二極化の傾向が見られる。	・新出漢字を学習する際には、漢字辞典を活用するなどして、漢字の成り立ちや部首の意味に触れることによって、興味をもたせ、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・説明文の読み取りでは、大切な文や語句などの情報に着目して段落相互の関係を押さえる学習を、授業の中で繰り返し指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○「ことわざの意味を知り、正しく使う」問題において、平均正答率が94.1%で、県の平均を9.9ポイント、市の平均を2.9ポイント上回った。	・ことわざや慣用句などの意味を調べる活動を取り入れ、それらを用いることのよさに気づき、積極的に使うことができるようにする。 ・短歌や俳句の単元では、解説文を読んで昔の人のものの見方や感じ方に触れたり、実際に短歌や俳句を作って自分の思いを表現したりすることで日本の言語文化への興味を高めていく。
話すこと・聞くこと	○5つの設問のうち4つの設問で県、市両方の平均を上回った。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる」問題では、平均正答率が76.3%で、県の平均を10.4ポイント、市の平均を10ポイント上回った。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ」問題では、県や市の平均をやや下回った。	・話し合いの単元や、他の教科、学級活動の時間において、共通点や相違点を意識しながら話を聞いたり、話したりする活動を積極的に取り入れ、話し合いの進め方を身に付けられるようにする。 ・話の中心を考えながら聞いたり、自分の意見を相手に伝えたりする機会を増やす。
書くこと	●平均正答率は59.5%で、県の平均を8.5ポイント、市の平均を4.3ポイント下回った。 ●「指定された長さで文章を書く」問題は、県の正答率を10ポイント以上下回った。 ●作文問題ではどの設問でも県・市の平均を5ポイント以上下回っており、苦手としている児童が多い傾向にある。	・テーマや字数など、与えられた条件で文章を書く機会を設けたり、日記指導に取り組んだりして、書く活動に日常的に取り組んでいく。 ・理由を挙げながら自分の考えを書く文章の訓練を積み重ねていく。 ・2段落になるように構成を考えて文章を書く訓練を重ねていく。
読むこと	○平均正答率は71.8%で、県の平均を2.2ポイント上回った。市の平均も1.4%上回っている。 ○説明的文章の「叙述を基に文章の内容を捉える」問題では、本校正答率は県の平均を7.4ポイント上回っている。 ●文学的文章の「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」問題では、県の正答率をやや下回った。	・説明的文章の読解においては、中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして、内容を理解させていく学習を継続して丁寧に行っていく。また、段落ごとの読み取りをした後、段落相互の関係も捉えられるようにしていく。 ・文学的文章の読解においては、登場人物の気持ちを表す語や文を見つけたり、それらをもとに気持ちを考える学習を継続して行っていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.9	67.8	67.0
	図形	77.8	73.9	73.1
	変化と関係	65.7	61.4	60.2
	データの活用	53.8	52.7	52.1
観点	知識・技能	73.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	61.9	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	61.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

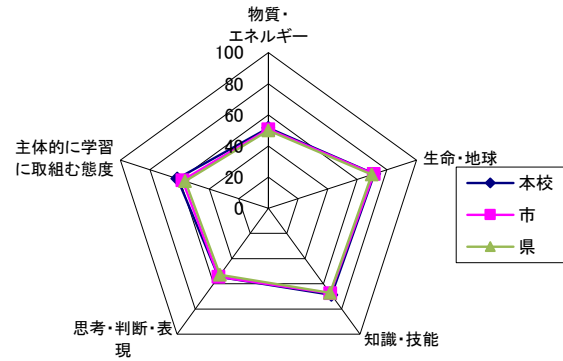
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は70.9%で、市や県の平均正答率を3ポイント上回った。 ○「小数第一位－小数第二位(差が純小数)」の問題で、平均回答率78.0%で、県の平均を11.1ポイント、市のポイントを9.6ポイント上回った。 ○「帯分数＋帯分数＝帯分数の同分母分数」の問題で、平均回答率75.4%で、県の平均を12.3ポイント、市のポイントを10.7ポイント上回った。	・プリント学習などを活用し、繰り返し復習して確実に既習内容が身に付くようにする。 ・数直線や式・言葉を使って計算の意味や計算の仕方を説明する活動を多く取り入れる。
図形	○図形の平均正答率は77.8%で、県の平均正答率を4.7ポイント上回った。 ○「180°より大きい角の大きさを求める」問題では、県の平均を8ポイント上回った。 ○「直方体のある辺に平行な辺を理解している」問題では、県の平均を7.4ポイント上回った。 ●「1000円札のおよその面積を選ぶ」問題では、誤答を選んだ児童が正答を選んだ児童より4.3ポイント多かった。	・図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする活動を通して、特徴を理解できるようにする。 ・公式を導き出して覚えるだけではなく、式と図形を関係づけて考えられるようにする。 ・日常生活の中でも、身の回りにある物へ獲得した知識を応用しようとする力を育てる。
変化と関係	○変化と関係の平均正答率は65.7%で、県の平均正答率を5.5ポイント上回った。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題では、平均正答率が56.8%で、県の平均を19.9ポイント、市を17.7ポイント上回った。 ●「数量の関係を割合を使って説明する」問題では、平均正答率が56.8%で、県の平均を2.1ポイント、市の平均を3.5ポイント下回った。	・身の回りの物や具体物を用いて見通しをもたせたり、イメージをさせたりする活動を取り入れ、算数的な感覚を養う。 ・今までに学習した様々な単位の関係を確認したり復習したりして、定着を図る。
データの活用	○データの活用の平均正答率は53.8%で、県の平均正答率を1.7ポイント上回った。 ○「2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する」問題では、平均正答率が33.9%で、県の平均を2.6ポイント、市を2ポイント上回った。 ●「折れ線グラフを読み取る」問題では、平均正答率が69.5%で、県の平均を4.6ポイント、市の平均を3.6ポイント下回った。	・課題意識をもち、資料内容の理解ができるように、学習体験(総合的な学習の時間)との関連を図りながら、普段の生活の中で、データの活用を行う場面に多く触れる。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.6	50.8	50.0
	生命・地球	71.5	71.1	69.8
観点	知識・技能	68.8	67.6	67.2
	思考・判断・表現	54.5	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	61.5	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は51.6%で、県や市の平均より上回った。</p> <p>○「物のあたたまり方」の平均正答率は県平均を上回り、問題によっては7ポイント以上高いものもあるため、定着している児童が多いことが分かる。</p> <p>●「電気のはたらき」の平均正答率は、全ての問題で県平均を下回り、特に直列つなぎに関する正答率が低い。</p> <p>●県や市と比較すると、学習時期が早いものほど正答率が低く、遅いものほど高いと言える。</p>	<p>・学習直後だけでなく、定期的に復習するように奨励していく。その際ノートにまとめる以外にも、持ち帰った道具を活用して再実験することにも意味があることを伝え、復習に対する抵抗感を和らげる。</p> <p>・実験や観察の結果を考察させたり、結果から考えたことを自分の表現で文章化させたりする活動を取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は71.5%で、県や市の平均より上回った。</p> <p>○「1年間の動物のようす」の平均正答率は県平均を上回り、問題によっては20ポイント近く高いものもあるため、定着している児童が多いことが分かる。</p> <p>●「雨水のゆくえと地面のようす」の平均正答率は県平均を下回り、土の粒の大きさと水はけの関係を指摘することに課題が見られる。</p>	<p>・天気と気温の関係や土の粒の大きさと水はけの関係を明らかにしていくために、自分なりの根拠をもって説明し合えるようにしていく。</p> <p>・学習と実験の目的を把握させ、課題解決に向けて自分なりに予想を立て、既習の内容と照らし合わせながら検証していく過程を大切にする。</p>



## 宇都宮市立戸祭小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」について、肯定的回答をした児童の割合が43.2%で県平均を10%上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」について、肯定的回答をした児童の割合が37.3%で県平均を3.6%上回っている。このことから、宿題以外の家庭での学習も定着している児童が多いことが分かる。  
今後自主学習の進め方の例を示したり、意欲的に取り組めるような工夫を取り入れたりして、家庭と連携を図りながら継続して行う。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」について、肯定的回答をした児童の割合が、74.6%で県平均より5.2%上回っている。このことは、本校の学習指導において定められている「めあて・まとめ・ふりかえり」を取り入れた授業づくりを行ってきた効果が出ていると考えられる。

今後も学習指導の基本を徹底し、児童が見通しをもって学習できる授業づくりを継続して行っていく。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」について、肯定的回答をした児童の割合が57.6%と県平均を9.9%下回っている。このことから、宿題をなぜやるのか理解せず、機械的に取り組んでしまっている可能性が見られる。

今後、もう一度宿題の意義を全体で確認するほか、個別にも声掛けをするなど工夫をして改善を図っていきたい。

●「学校のきまりを守っている」について、肯定的回答をした児童の割合が53.4%で県平均を7.5%下回っている。また、「学校での役わりや係の仕事に責任をもって取り組んでいる」について、肯定的回答をした児童の割合が55.9%で県平均を8.7%下回っている。

今後、学級等で係活動や学校生活を振り返り、一人一人がきまりを守る意味や責任をもつこと大切さを考える機会をもつとともに、積極的に物事に取り組む姿を称賛し、自主性がもてるように支援していく。

## 宇都宮市立戸祭小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な深い学びの学習に取り組む児童の育成	児童に本時の授業や学習全体の流れについて見通しをもたせる。それにより、やるべきことが理解しやすくなり、活動の方向性を具体的に考えることができる。よって自らの能力を生かして問いに挑戦しようという意欲がわくと考える。 また、友達と話をして考えを上げたり、他者と関わって問いを解決したりする場を設ける。その取組により、自分の学習に有効であると感じることで、一層双方向のやりとりが充実し学習への効果が上がると考えられる。	4年生の質問紙の「授業の中で、目標が示されている」について、肯定的回答率が県の数値より上回っている。学習指導の「めあて・まとめ・ふりかえり」の流れを押さえた授業を展開してきた成果ととらえることができる。また、5年生の質問紙の「困難なことにも挑戦する」の肯定回答率が8割を超え、県の数値よりも上回っている。できるようになりたい気持ちが高く、意欲的に取り組む姿勢をもつ児童が多い結果である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の結果から、4年生の平日の家庭での学習時間が0分～30分にとどまる割合が2割程度あり県の平均よりも高い状態であった。また5年生では、宿題を行うことが自分のためになっていると考えている割合が県平均より下回った。	各学年の実態に合わせた家庭学習の啓発	長期休み明け(夏休みと冬休み)に家庭学習強化週間を設け、学校全体で家庭学習への意識を高める。また、学習内容の明確な提示と取組に対しての確認や励ましを行い、意欲を高められるようにする。